

Staff Blog



スタッフブログ

（スタッフブログ）

飼育員のおすすめの本

番外編！！

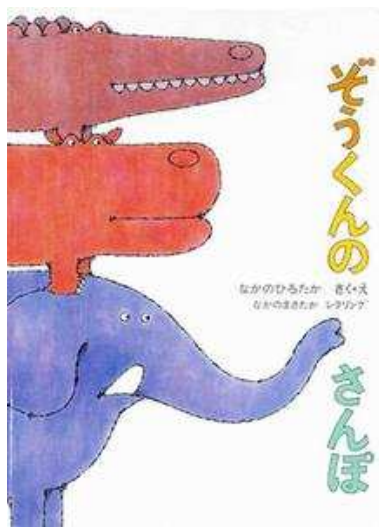
今月更新したかみね動物園公式Youtubeはご覧になっていただけただけでしょうか？
まだご覧になっていない方はまずはそちらをご覧ください。

公式Youtube

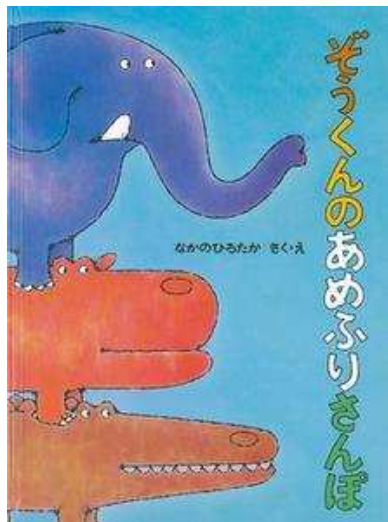
URL： <https://youtu.be/oOZhnkMMiY>

今回の動画は『飼育員のおすすめの本』でした。
この番外編ブログでは動画に入れることができなかった本をいくつかご紹介したいと思います。

やました飼育員おすすめの本



「ぞうくんのさんぽ」



「ぞうくんのあめふりさんぽ」

作：なかのひろたか

出版社：福音館書店

～あらすじ～

ぞうくんが色んなお友達と散歩に出かけます。

～おすすめの理由～



子どもが好きな絵本です。1～2歳くらいの子にオススメです。

オチや展開は同じような感じですが、そこが子どもたちに人気のようです。

かわそえ飼育員おすすめの本



「ゾウの時間ネズミの時間～サイズの生物学～」

作：本川達雄

出版社：中公新書

～あらすじ～

生き物のサイズによって動物たちはそれぞれ異なる時間を持ち、その時間の中で生きていることを様々な仕組みから紐解いていく生物学の本です。

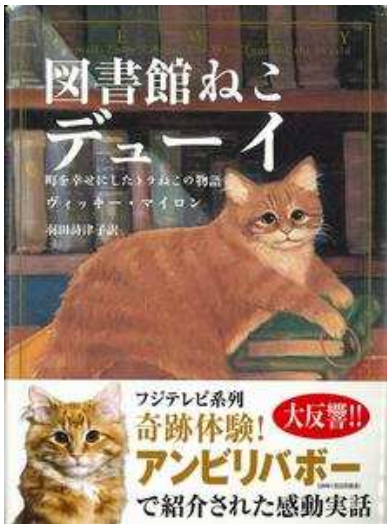
～おすすめの理由～



一生の間に使用するエネルギー量や心臓の打つ回数などは動物たちにはほとんど差異がないのでサイズの小さい動物全速力、大きい動物はゆっくり生きていることになります。

自然の中での私たち人間の立ち位置や価値観を再確認できる本です。

はまだ飼育員おすすめの本



「図書館ねこデューイ 町を幸せにしたトラねこの物語」

作：ウィッキー・マイロン

訳：羽田詩津子

出版社：早川書房

～あらすじ～

町の人に愛されている図書館に住みついた猫のお話です。感動系です。



「鷹の師匠、狩りのお時間です！」

作：ごまきち

出版社：星海社

～あらすじ～

実際に猛禽類を飼育している人のエッセイ。

日本の法律とかもさりげなく学べる。

～おすすめの理由～



高校生の頃読んでとても印象的だったので。

たかはら飼育員おすすめの本



「三びきのやぎの がらがらどん」

作：マーシャ・ブラウン

訳：せた ていじ

出版社：福音館書店

～あらすじ～

三匹のヤギが新たな草原を求めて橋を渡ろうとするお話です。

～おすすめの理由～



昔、子どもによく読んでいました。

なぜ三匹とも名前が「がらがらどん」なのかがずっと気になっています…

ありかわ飼育員おすすめの本



「カンガルーには、なぜふくろがあるのか」

再話：ジェームズ・ヴァンス・マーシャル

絵：フランシス・ファイアブレイス

訳：百乃 佑利子

出版社：岩波書店

～あらすじ～

カンガルーをはじめいろいろな動物のお話が詰まった絵本です。

～おすすめの理由～



オーストラリアの先住民族の方々子どもたちに聞かせている童話たちです。
日本とは捉え方も違いとても面白いです。

簡単な紹介となっしまいましたがいかがでしたでしょうか？
Youtubeで紹介した本とも合わせて気になるものがありましたらお近くの書店や図書館でぜひ手にとってみてくださいね！！

2023年9月28日

SW特別イベント実施しました

9月16～18日の3日間でSWの特別イベントを行いました。

9月16日(土) サイパンデー

毎年9月22日は「世界サイの日」9月の第3土曜日は「国際レッサーパンダデー」と、それぞれの保全団体が提唱しており動物園でも募金活動やイベントを行ったりしています。
今回は午前中にクロサイ



午後にレッサーパンダのガイドを行いました。



2種とも絶滅が危惧されている動物たち。

「どうしたら減っていく動物を守るのか」など少しでも考えるきっかけになればと思います。

17日(日) どうぶつ ご長寿クイズ大会

9月18日(月)が「敬老の日」ということもあり動物園にいる高齢個体や、寿命についてのクイズ大会を行いました。



園長もクイズ大会に参加し



参加者への景品も喜んでもらえたかな？

クイズ大会も皆さんで考えてもらって盛り上がっていました！

18日(月) 秋の味覚バンザイ！～動物たちに秋の味覚プレゼント～

最終日は日本にいる動物(ニホンザル、エゾヒグマ)に秋の味覚をプレゼントしました。

午前中はニホンザル



飼育員がタワーの頂上に枝を挿し



最初はびくびくしながらも徐々に木に上る様子も見られました。

午後からはエゾヒグマ



たくさんの方々に囲まれてのガイドでした



いろいろと盛り上がったSW。

これからも様々なイベントを行いますので注目して見てもらえればと思います。

2023年9月20日

十人十色 八頭八色

年度が替わるタイミングで学生にクラス替えがあるように、飼育員には『動物の担当替え』があります。

今年度からサル類の担当になった私は、毎日数十分だけチンパンジーたちと関わるようになりました。

最も人間に近い動物とも言われるチンパンジー。個体ごとに個性があり、ほぼ初対面の私への対応も様々でした。

今回はチンパンジーの担当をしたことがない私から見た、チンパンジーたちの印象をお話したいと思います。



まずは体格のいい立派なリーダー(αオス) ユウ！

先輩飼育員曰くとても優しいそうですが、個人的にはちょっと苦手…

というのも、見慣れない私に対してことあるごとに唾を吐き掛け、隙あらば口に含んだ水を飛ばしてくるからです。

群れのリーダーとして自分を強く見せるための行動だそうです、顔面に掛けられるとテンションが下がってしまいます…

今は『ユウと仲良くなろう大作戦』ということで会うたびに好みの餌を与えています。

少しは仲良くなれたかな？今後も根気強く接していこうと思います。



続いては元リーダー(αオス) のゴヒチ。ユウやリョウマの父親です。

先輩飼育員曰く宇宙のような心の広さだそうです。

群れ全体の穏やかな雰囲気や最年少のチヨに対する接し方を見ると、確かに心が広そうだなと思います。



お次はヨウ。52歳で最年長ながらとても元気なメス。

ちなみに私の一押しです！

とても愛想がよく、会うたびにうなづくような動きで挨拶をしてくれます。

私に限らず人間の男性全般が好きなようですが、友好的に接してくれるのは嬉しいものです。



マツコ。優しく穏やかな性格で、息子のリョウマに対しては未だに甘いそうです。

食べたり飲んだりすることが大好きなようで、ジュース(オリゴ糖を加えた水)を与えていると最前列の一番もらいやすい所に来ます。

これからも歯を大切にしてください。大好きな食事を楽しんでもらいたいです。



イチゴは、いしかわ動物園で生まれ人工保育で育ちました。

人工保育で育ったためか、他個体とのコミュニケーションが上手く取れなかったそうです。

しかし今では色々なことを学んで群れの一員として過ごしています。

英語が苦手な外国人とのコミュニケーションがなかなか取れない私は、イチゴに対して勝手に親近感を抱いています。



ゴヒチとマツコの息子で思春期真っ盛りのリョウマ。

大柄な体格で大迫力のディスプレイをしているのを見て、最初は少し怖い印象でした。

しかし、ユウにビビったりジュース(オリゴ糖を加えた水)を積極的に飲んでくれたりといったかわいらしい一面を見ることができ、年相応の男子という印象に変わりました。

今後の成長過程を見るのが楽しみです。



一昨年、よこはま動物園ズーラシアから来たフク。

社会的かつ積極的な性格ですぐに群れに馴染んだそうです。

こまめにグルーミングや挨拶をして他個体と良好な関係を築けているようです。



最後に紹介するのは最年少のチヨ。

イチゴの初めての子ですが上手に育児をしてもらうことができなかったため、人工保育で育ちました。

現在は7頭の大人たちと一度に同居する練習中。

少しずつ成長していく姿を見ていると今後がとても楽しみです。

以上で終わりになります。

チンパンジー担当ではないため、1日に関われる時間が少ないのでなかなか進展していきませんが、チンパンジーたちと良好な関係が築けるように頑張っていきたいと思います。

飼育員 風間

2023年9月19日

かみネイチャー Vol.2

そろそろ第2弾を出したいなと思いつつ、でも外を歩くには暑すぎる。。

と思っていたら9月になってしまいました。

もうすっかり秋！とはいかず、まだまだ残暑厳しい日々が続きますね。

秋ということで園内にある実のなるものを探してみました！

かみネイチャー Vol.2

まずは、こちらの木。ヤマボウシです。



6月～7月に白い花（詳しくいうと白い花びらに見える部分は総苞片<そうほうへん>といい、花はその中心にある緑色の部分です。）を咲かせる落葉樹で、ご家庭のお庭に植えてある方もいるのではないのでしょうか？自分の実家にもヤマボウシが植えてありました。

9月～10月には実をつけて、これがよく園路に落ちているのは見ていましたが調べてみると食べられるそうです。ということで美食！！



さすがに落ちているのは手が出せなかったのも木になっている熟しているものを拝借。表面はつぶつぶしていてちょっとビジュアルが。。。



中身は黄色く、細かい種があります。味はほんのり甘く、どことなくマンゴーに似てると思いました！（見た目はかなり影響されているかも）

特に中毒を起こすようなことはないようですが、道に植えてあるものには薬がまかれていたり、落ちた実は衛生的ではないのでそこは注意してください。また、人の家に植えてある実を採って食べるのもダメです！！

~~~~~  
~

続いて見つけたのはこちら！



これは栗！？いえいえこれはトチの実です。

お隣の栃木県の県木になっているこのトチノキですが、ふれあい広場の所にひときわ大きくそびえたっています。



分厚い果皮を割ると中に栗によく似た種子が出てきます。



その種子を割ってみるとこれまた栗のような中身が出てきました。

このままでは灰汁が強く、そのまま食べてしまうとお腹を壊してしまいますそうです。なので動物たちにあげても食べません。

さらに灰汁抜きにはなかなかの工程があるようですが、縄文時代から食べられていたようです。現在もとち餅に利用されています。興味がある方はご賞味ください。

~~~~~  
~

続いてはこちら！みなさんご存じのドングリです。



ドングリとなる木にはいくつか種類がありますが、園内に多くあるのはマテバシイという木になります。マテバシイのドングリは大きく細長いのが特徴です。



園内にはホンシュウジカの展示場とカバのプール前の園路に植えてあります。



硬い殻を割ってみると中身はこんな感じ。小学校の校庭にも多く植えてあり、この硬い殻を割ろうと苦労した覚えがあります。しかし今はペンチという便利な道具が腰に刺さっているので難なく割ることができました。

少しかじってみると多少の渋みはありましたが小学生の頃に感じた程の苦味はなく、大人になったのかなと感じました。



ホンシュウジカの展示場には「どんぐりポスト」が設置されています。

自然界では、これからの厳しい冬に備えて木の実などを食べこみます。クマやサル、シカやリスなどの森にすむ動物たちにとっては大切な栄養源になります。

動物園でもドングリをおやつとして与えることがあります。そこで園内のどんぐりを集めるお手伝いをみなさんにしてもらおうというのがこのポストになります。

ここで集めたドングリはきれいに洗い、虫食いドングリや割れて悪くなったドングリを除去するなどの処理をして与えています。なので、みなさんが直接動物にあげるのはご遠慮ください。

また、園外で拾ったドングリをたくさん持ってきたくださったり、遠方から郵送で送ってくださる方もいます。お気持ちは大変ありがたいのですが、動物たちにはおやつ程度に与えているだけです。消費し切れずに大量に処分することになってしまいます。なのでこのどングリポストには園内で拾ったどングリだけ入れるようお願いいたします。



園内の木の実に話からちょこっと重い話になってしまいましたが、季節が変わり雰囲気が変わっていくかみね動物園をこれからもお楽しみください。

食欲の秋がだんだんと短くなってきているのがちょこっと不満の飼育員 西野

2023年9月16日

ポリビアリスザルのゲンキ

最年少のポリビアリスザルといえば

リスザルの島には、現在8頭のリスザルたちが暮らしています。それぞれ見た目にも性格にも個性があり、観察しているとその個性が垣間見えます。

8頭のうちの最年少、ゲンキ。



ゲンキは今年の5月で4歳になりました。「わんぱく」「やんちゃ」という言葉がとってもお似合いのオスのポリビアリスザルです。実はこのゲンキ、産まれてすぐに母親を亡くしたため、人工保育（飼育員が母親代わりにミルクなどをあげて育てる）で育ちました。先輩職員のおかげで、名前の通りすくすくと元気に成長し、リスザルの群れの一員として合流することが出来ました。

かみねのウォークスルーといえば…

かみね動物園のリスザルの展示方法はウォークスルーといって、リスザルたちが棲んでいるエリアに人がお邪魔するといった展示方法です。動物との距離が近いので、間近で見ることができなのがこの展示方法のメリットです。



(どこにリスザルいるかな～)

リスザルたちは、触れようものならキーン！と怒りますが、島に入ってくる人は危害を加えるものではないことが分かっているようで、基本的には自由気ままに過ごしています。(美味しいものや興味のあるものはサッと盗んでいくのでカバンなどにしっかり入れてから入ってね。)



ゲンキにウォークスルー展示が合わない!?

来園者の皆様にたくさんのお願いをして成り立っているこのウォークスルー展示ですが、ゲンキを放つとなると事情が変わってきます。

人は遊んでくれる、かまってくれる、そんなふうにいるようで、距離を取ろうとしても、体に飛び乗ってきたり、足の上に乗ってきたり…。お気に入りの職員が来ると声を出して喜び大興奮。見た事ない物や興味湧いたものはとりあえず奪って自分の手の中、口の中に。

もちろん各々性格に個体差はありますし、まだまだ子供という年齢もあり、必ずしも人工保育で育ったからというわけではないですが、他のリスザルよりも異常に人慣れしている部分があります。

かみね動物園ではリスザルをペットとして飼育しているわけではなく、野生動物として扱っています。職員もリスザルとの距離を大切にし、不必要に触ったりはしません。ですので、来園者の皆様にも「観察」という形でリスザルを見ていただいています。

しかしゲンキに限っては適切な距離を取らず、来園者の皆様に近づき、ひどい時は噛んでしまったり、物を盗んでしばらく返してくれなかったりすることがありました。

最近のゲンキ事情

というわけで、来園者の多い日中はお部屋の中でお留守番をしてもらっていましたが、



(部屋の中でお留守番中のゲンキ。ひとりでも部屋の中を走り回っています。)

4歳になり、以前よりも落ち着きが出てきたので、最近は時間を見つけてはゲンキを外に出して島を通行可能にし、他のリスザルと同じように人を気にせず過ごせるような練習をしています。



(外は刺激がいっぱい！最近をよく虫捕りをしています。)

この練習は万が一のことを考え、基本的には担当者のわたしがいるときのみ実施していますが、今のところそこそこ良い感じ。これが他の職員でも同じであれば上出来ですが、諸々の事情でまだ踏み切れません。

目指せ！今年の冬は部屋を開放して暖かい部屋と外の行き来できる展示ができるように！

(昨年まではゲンキを部屋にとどめておかなければいけなかったために、他のリスザルたちは寒い中頑張ってもらったので…)

そしてどの職員に対しても同じ態度で接する事が出来るように！



(走り回りすぎて小休憩するゲンキ)

全てはゲンキ次第。やんちゃなゲンキがどうやったら話を聞いてくれるのか、模索しながらの練習が続きます。

お外に出ている時に遭遇したら、頑張ってるなーと静かに見守っていただけると幸いです。

(気分はやんちゃな子を持つ悩める母 ところ)

シン・緑化計画

カピバラ運動場の横にあるエリア、もともとはオスのカピバラを飼育していたエリアですが、最近では同じ齧歯目で南米に住んでいるマーラという動物を飼育しています。



(ウサギじゃないよ、マーラだよ)

今年度のカピバラ緑地開放イベントも終わり、カピバラ運動場と今マーラがいるエリア一帯をマーラとカピバラ達に広く使ってもらおうと、自由に行き来できるようにしました。

カピバラ緑化計画 (別リンクが開きます)

<https://www.city.hitachi.lg.jp/zoo/blog/staff/nishino/p094255.html>

カピバラ緑地開放 今年度の様子 (別リンクが開きます)

https://twitter.com/HitachiCity_Zoo/status/1669961264221782017?s=20

こちらのエリアにもカピバラ用の大きなプールがあるのですが、せっかくカピバラが来るといことで、味気ないプールを緑一面の水草にしてお出迎えしようと「シン・緑化計画」を実行することになりました！



(もともとのプール)

しかし、野生のカピバラの主食は地面に生えている草と水草！もちろん動物園のカピバラも水草を食べてしまいます。せっかく水草を浮かべても食べられてしまって、すぐになくなってしまわないように



(水草農場設立！)

こんな設備を用意してみました。水の入る大きく広い容器に山水を掛け流しにして、これでたくさん養殖できるはず。この水草は熱帯性なので、今年のように暑い夏であればすぐに増えてくれることでしょう！



じゃーん！1ヶ月でこんなにたくさん増えました！

この水草達をプールに浮かべてみると。。。



(いいかんじ！！)



水草をかき分けて顔を覗かせる姿が、なんだか野生味出てていい感じですねえ。



もともと南米に住むカピバラは水辺近くの湿地や草原に暮らしており、実際にこのように水草から顔を覗かせることがあるそうです。カピバラの目と鼻は一直線になっていて、こんな風に顔を最小限だけ水面に出して周りを伺うことができます。天敵に襲われないようにするための生きる工夫ですね。



警戒するとよーんと首がのびます



(二頭なかよく めビビリンと♀セリナ)

大きな水草（ホテイアオイ）は食べられることもありますが、根さえ残っていれば葉っぱがまた生えてくるので、ローテーションしながら水草プールを維持しています。小さい水草（確かオオサンショウモ）はカピバラはあまり好まないようでどんどん増えていきます。水草経営は順調です！



こんな感じで狙い通り水草いっぱいになって、担当者としても大満足です！

ただひとつ、問題なのが



掃除が1000倍大変になったことです。掃除の度に回収して……。まあこれは良しとしましょう！



(水草滴る良いカピバラ)

しかし、こんなカピバラが見られるのも寒くなる前の秋くらいまでかもしれません。

そもそもかみね動物園のカピバラは冬になると寒くてプールに入らなくなるのと、熱帯の水草なので、冬がくると枯れてしまいます。まだまだ暑さが続きますが、興味のある方はぜひみにきてくださいね！

水草のお世話に奔走中 日野

身近な生き物展、開催しました！

生き物展開催しました。

皆さんにとっての身近な生き物ってどんな生き物でしょうか。

今年も夏の企画展として、8月6日～31日まで身近な生き物展をどうぶつ資料館にて開催しました。

まずは生き物探しから。

木の根元を探したり、少し暗くなってからライトを照らして探したり…。

今年は去年に比べて生き物の種類や数が少ないなという印象でした。



それでも展示したいと思う生き物を見つけることができました！



いざ展示！

各グループでどんな種類の生き物を展示するか決めた後、各々で展示する環境を整えました。

今回はいろいろなカミキリムシや綺麗な色のハンミョウ、皆さんご存じのおたまじゃくしからカブトムシやクワガタ、海に生息する生き物など、様々な生き物を展示しました。



(シロスジカミキリ、センノキカミキリ、ナミハンミョウ)



(大人気のカブトムシ、海の生き物の展示も！)

「身近」と言っても、見つけようとしないと見つからない生き物もたくさんいます。

あなたの身近にはどんな生き物がいますか？

ぜひこれを機会に身近にいる生き物に注目していただけたらと思います。

ちなみに…



皆さんからいただいた質問と飼育員からのお返事は次のイベントまでどうぶつ資料館に掲示しておきます～！

ニホンザル飼育日記 ～"もふばあ"のこと～

皆さんこんにちは！

暦も変わりましたがまだまだ暑さの残る、かみね動物園から有川です！

今まではニホンザル舎にソテツを植えた話や、獣舎の改装の話などをしてきましたが今回はある個体についてのお話です。

ところで皆さんはニホンザルの獣舎をよく観察したことはありますか？
よーくのぞき込むと…



おや？



おやおや？



こんなところに1頭ニホンザルが

今日はこの個体についてのお話です。

彼女の名前は"もふばあ"

姿勢や顔つき、毛並みなどから推定でも25年以上を生きてきたと思われる高齢の二ホンザルです。

ちなみに二ホンザルの寿命は野生下だと25年程度ではありますが、動物園などの飼育下だと安定した餌が供給されること、幼少期に命を落とす可能性が低く寿命が40歳を超えてくる個体もいます。

そんな中で「なんで"もふばあ"だけ別で暮らしているの？」と思われた方も多いはず。

実は彼女も元々は群れの中で過ごしていたのですが離れざるを得ない理由がありました。

1.白内障

"もふばあ"の右目に注目してください。(向かって左です)



少し白くなっているのがわかりますか？

実は数年前に白内障を患っており、片目が見えない状態になってしまっています。

このまま外に出してしまうと、かみね動物園の二ホンザル舎には高さ約7mのタワーがそびえており



登る事が出来たととしても、降りられなかったり最悪の場合は転落してしまうリスクがあります。

2.腰の病気

彼女は背骨も少し曲がっており、なかなか満足に歩くことが出来ないこともあります。

そんな中群れでの闘争などが起きた時に彼女が逃げられないリスクもあります。

3.一時期群れから離れていたこと

彼女は治療のために一時期、獣医室に入院していることもありました。

しかし相手は二ホンザル。一度いなくなった個体を簡単に受け入れることは無く、むしろ敵対意識を抱くことも多く、群れの団結力は私たちの想像を超えてきます。

そして良くあるのが二ホンザル同士での"仲間外れ"。

外部から来た個体を簡単には許さずに闘争の際の傷が原因で敗血症で死亡することがありま

す。

実は日本の動物園でもニホンザルは外部の個体が群れに合流して成功した記録がほとんどなく、群れに外部の個体を合流させることが難しい種なのです。

そんな理由もあり「いきなり群れに合流させることは危険なのではないか？」と思いましたが、それと同時に「群れで生きている動物なのだから少しは他個体と接触したり陽の光を浴びることも大切なんじゃないか」と思い隔離用のケージを作り、少しだけ外に出られるようになりました。

一方の"もふばあ"は



のんびりご飯を食べたり



外を眺めたり



もらったエサを他個体に見せに行ったりと彼女なりに他個体との接触を楽しんでいるのではないかと見えることもあります。

(こちらは梨をフェンスの向こうの個体に見せに行っている写真です)

これからも元気に過ごしていくであろう"もふばあ"

「彼女の存在を皆さんに認識していただくこと」と「年老いて展示できなくなったらそれで終わり」ではなく「動物の老後のケアも動物園での日常の一つ」と感じていただければと思

います。

本日はここまで。

また二ホンザルたちに進展がありましたらブログやSNSで報告させていただきます。

"もふばあ"にイモを

あげるとすぐに放置される ありかわ

2023年9月1日

過去の一覧

[令和6年](#)

令和5年

[令和5年12月](#)

[令和5年11月](#)

[令和5年10月](#)

[令和5年9月](#)

[令和5年8月](#)

[令和5年7月](#)

[令和5年6月](#)

[令和5年5月](#)

[令和5年4月](#)

[令和5年3月](#)

[令和5年2月](#)

[令和5年1月](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)